

- I 会議等の名称 平成 26 年度 第 2 回三重県聴覚障害者支援センター 評価委員会
II 開催日時 平成 26 年 12 月 8 日（月）19:00～21:15
III 開催場所 三重県聴覚障害者支援センター 研修室

IV 出席者

1. 委員（6 名）

櫻井 誠人（委員長）	西川 隆義（副委員長）
小笠原 由起	坂下 浩
森 徹雄	山本 啓子

2. 三重県聴覚障害者支援センター

深川 誠子（指定管理者三重県聴覚障害者協会 会長）
山本 喜秀（センター長、支援課、ライブラリー課責任者）
那須 万美子（職員、派遣課責任者）
加藤 恵美（職員、養成課責任者）
田代 慶藏（職員、相談事業担当者）
矢野 玲子（職員）※記録担当
岡田 敦子（指定管理者 三重県聴覚障害者協会 職員）※記録担当

V 議題及び審議の内容

【議題】

1. 自己紹介
2. 評価委員委嘱
3. 2 期の報告のポイントと質疑

【議題 1】自己紹介

評価委員、三聴障協会長および職員、センター職員がそれぞれ自己紹介をした。

【議題 2】評価委員委嘱

深川会長より委嘱状を渡した。

【議題 3】2 期の報告のポイント

センター長より説明し、質問に答えた。

1. ①字幕映像ライブラリー制作・貸出事業

(1) 制作

4 本制作済。他、映像は撮影済み。3・4 期で編集作業を行う。目標は達成する見通し。

(2) 管理と貸出

- ・来所による貸出が増加。お薦め作品を借りに来る人が多かった。
- ・聾学校（出前ライブラリー）の貸出数は、夏休みがあったために少ない。

・作品はVHSが多いが、最近はDVD再生機が普及しているので、困っている。

【意見】団体の運営委員会からの意見。遠方の人は利用しにくい。郵送で貸出できることを知らない人もいる。地域別の貸出数を知りたい。

【意見】ホームページにある作品一覧は文字が非常に小さく見づらい。手話学習用、懐かしの映画など分類別に表示できたり、作品ごとの内容紹介が表示できるとよい。サークルへ手話学習用DVDを紹介すれば需要はあるだろう。

【回答】ホームページ上で作品を紹介をする予定はあったが対応できなかった。前向きに考えたい。

【意見】職員のオーバーワークとならないようにしてほしい。例えば、感想を団体の新聞等に掲載して宣伝をするなど、負担なくできるといい。

【回答】ご協力をよろしくお願いいたします。

【質問】作品の制作時間はどのくらいか。また、貸出は新規とリピーターとどちらが多いのか。

【回答】制作時間は、2日間～1週間以上と作品によって違う。計画を立てて進めたい。例えば、手話学習用などはシリーズ化して制作したい。貸出については、リピーターが多い。借りる方法も分かっているので。新規の人は、目的の作品があって、単発で借りる場合が多い。

【質問】昨年度も制作が年度末に集中しており職員への負担が多いと感じる。協力者を活用できていない理由を教えてください。機材などの問題もあるのか。

【回答】職員以外で編集ができる人もいますが、平日での日程調整が難しい。機材は編集・字幕制作ともに1台ずつ。複数の人が同時に同じ作業をすることは難しい。

1. ②手話通訳者及び要約筆記者養成事業

(1) 手話通訳者の養成

計画通り実施した。四日市会場では受講者が2名減少。

(2) 要約筆記者の養成

9月に終わり、18名が修了した。今後、実習がある。

(3) 手話通訳者等スキルアップ研修

12月6日の統一試験対策として、強化学習会を実施した。

【質問】手話通訳者養成講座では、受講者数が2会場ともに定員に満たない理由は？申込数は定員に達していたのか？

【回答】申込数は定員未満。さらに面接で選考している。

【質問】選考にもれた数は？またその後、地域のサークルなどで学習を継続できる状況にあるか？

【回答】3～5名程度。申込者にはサークルに所属していない人もいる。結果を通知する際、サークル等での学習を勧めている。次の募集に申込んでくる人で、サークルに入った人もいれば、そうでない人もいる。サークルにも協力をお願いしたい。

1. ③手話通訳者・要約筆記者派遣事業

派遣件数は、昨年度と比較し2倍程度、増加している。理由は、市町からの依頼が増えたこと、また松阪市の手話言語条例制定の影響も考えられる。

【意見】昨年度と比べ、2割増程度ではないか。

【回答】訂正します、1.2倍程度。

【意見】伸び率が見てわかるようにしてほしい。派遣できないこともあるのか？

【回答】次回から、伸び率がわかるような資料作りに努力したい。

依頼は増加傾向にあり、断る件数も今年度は少しある。通訳者の確保が難しい場合は、広域に打診したり、再打診している。市町で確保できずに、センターに依頼される場合は、日にちが迫っていると難しい。そのため、市町とセンターと同時に依頼を流し、市町で確保できた場合はお断りされることも。依頼者からのキャンセルもある。

【質問】運営委員会、班が稼働していないことが心配。どう考えているのか。

【回答】班会議は、2回程度開催できるといい。今年度は登録者の懇談会の計画を立てている。2回目の会議で具体的に決める予定。要約筆記部門は、全国大会もあったので後回しになっている。できるだけ早く集まり、計画したい。

【質問】班の委員の選考方法は？

【回答】各団体から選出してもらっている。

1. ④盲ろう通訳・介助者派遣事業

スムーズに進んでいる。盲ろう者の社会参加が進んでいると感じる。

【質問】盲ろう通訳介助をやっているが、手話通訳よりもかなり負担が多い。1日8時間、昼休みもないくらい通訳介助に従事する場合がある。手話通訳と同じように、半日で交代するなど対応してほしい。また、他県の情報もあれば、通訳介助者に情報提供してほしい。

【回答】今後、考慮したい。

1. ⑤情報支援機器の貸出

難聴者の全国大会関係の会議があり、増加している。

1. ⑥日常生活用具の展示、紹介

貸出も行っている。

聞こえの相談に来た人が、展示を見て借りるケースもある。特に、振動式目覚まし時計や屋内信号装置（玄関チャイム）など。

【質問】聴覚障害者から、展示物について「これを置いて欲しい」などの要望はあるか？

【回答】ある。その場合は、取扱い業者を紹介している。

⑦各種相談の実施

相談員がいる日は、相談を受けている。また、月1回、「聞こえの相談会」を開催している。心の病気などで、定期的に相談に訪れる場合が多い。

【意見】新規件数と継続とで分けてほしい。また、外部機関とつながった件数も知りたい。

【回答】できる限り載せていきたい。

【質問】各地域に登録している「ろうあ相談員」も対応しているのか？

【回答】それも含んでいる。センター職員の山本、田代と、地域のろうあ相談員が8名登録している。該当地域にろうあ相談員がいた場合は、対応してもらっている。

【質問】相談員のスキルアップは？

【回答】今はない。今後実施していきたい。

【質問】地域のろうあ相談員に、日本聴覚障害者ソーシャルワーカー協会につなぐことを伝えてほしい。日本聴覚障害者ソーシャルワーカー協会は、東日本大震災のときに活躍されたと聞いた。また、若い相談員にも頑張ってもらいたいので、資格が取れる体制づくりを。

【回答】現在、日本聴覚障害者ソーシャルワーカー協会の協力をいただき、相談に対応している。私も学んでいます。相談員も増やしたいと思う。

【意見】相談員のネットワーク作りについて。耳鼻咽喉科や補聴器販売店など、聴覚障害関係が多い。でも相談は、心の病気によるものが多いとのこと。精神科とのネットワークも必要になるのではないか。

【回答】田代と相談して、進めたい。

【意見】精神障害者関係の相談員も登録してはほしい。活用してほしい。

【質問】さきほど言われた「相談員8名」とは、外部の相談員なのか？

【回答】市町で登録している相談員。その人たちに協力してもらっている場合がある。有資格者にも登録してもらっている。

⑧生活訓練の実施

難聴者からの要望により、8月より月2回（昼の部、夜の部）難聴者のための手話教室を開催。講師は、センター長。

【質問】難聴者のための手話教室以外で、コミュニケーション教室の開催予定は？

【回答】今後、開催する予定。これまでコミュニケーション教室は5回シリーズで、補聴器相談や手話教室が入っていた。この2つについては、現在、毎月開催しているので、内容からは外す予定。日常生活用具の使い方をメインに実施する予定。

【意見】聞こえの相談会についても、報告書に掲載してほしい。

⑨各種情報の発信

センター便りを月1回、発行。ホームページを更新し、情報発信をおこなっている。

⑩災害発生時における被災者支援

伊勢市とは、10月に防災訓練があるため、それに向けて話し合った。

伊勢市以外の地域にも、協定締結を進めていく。例えば、南勢、志摩地域に対しては、地域活性化局会議の場で災害協定について説明をした。鳥羽市は、防災キャンプの場で説明をした。

サポーターに対しては、メールの送受信訓練を実施した。

【質問】伊勢市との会議の内容について教えてほしい。

【回答】名簿の受け渡し方法、発災前と後とでできること、また10月の防災訓練について話し合った。

⑪地域活動団体交流

「夏休みこども手話教室」を4回開催した。各回7～11名が参加。もっと学びたいという声もあった。

9月15日のセンターまつりは、参加者200名程度。

ほか、施設見学も受け入れた。

【意見】センターまつりは、三聴障協の行事「ろう者文化祭」と似ていて、センターらしさがなかったとの意見があった。参加者も身内が多く、部外者は入りにくかったのではないかと。津市の広報や自治会に頼むなど周知方法について工夫してほしい。

【回答】県政だよりに載せるために、早めに計画を立てていきたい。今回は県政だよりのデータ放送には掲載し、地域や施設にもPRしたが、力不足だったかも。一般の方の参加が少なかったと思う。広報についてよい方法があれば、教えてほしい。

【意見】一般の人も来ていた。要約筆記のような体験もしてもらえて、なかなかよかった。

⑫地域活動団体への情報提供

方法は、センター便りとホームページ掲載。ほかに関係団体の新聞に記事を掲載した。

【質問】報告書にあるように「サークル活動を把握し、HPで周知」していますか？

【回答】サークルの一覧は掲載している。活動状況については、今後載せていきたい。

2. 施設運営の実施計画

計画どおりに進めている。

【意見】職員の負担減の解決につながるかもしれないので、どの業務にどれだけ残業があるか、大まかでいいので出してほしい（負担にならない程度に）。

3. 運営体制及び組織

次回は担当名を入れて報告する。

4. 収支計画

「委託事業」は県の事業のこと。「自主事業」は通訳者等の派遣事業です。

自主事業の「市町派遣事業」は、市町からの委託料で実施している。

【質問】自主事業の収入について。市町と自主の数字の傾向が、昨年度と逆になっている。間違いではないか。

【回答】確認し、次回報告します。

・事業計画の達成目標&達成率表

4期までに達成するようにしていきたい。

【意見】手話通訳者の派遣の達成率について。目標40件に対して、1件（達成率3%）。派遣は、センターの努力で達成するものではないと思うが。

【回答】昨年度は、高齢の方から依頼があった。その方が亡くなられたので、その分依頼が減っている。今後、徐々に増える見通しはあるが、確かに本人からの依頼が元となっている。

以上